

令和7年度すくわくプログラム活動報告

江戸川区臨海第一保育園

テーマ「音・振動・感触」



生活の中でいつでも感じることできる『音』に着目しました。自然音、生活音、人の声、自分たちで作り出すことができる音など、園内の子どもたち全員が感じることができる題材であり、様々な音から派生する振動や感触について、子どもたちの気づきや発信を受け興味関心をさらに深めていきたいという思いからテーマを決めました。



職員劇『ブレーメンの音楽隊』の中で、馴染みのある楽器から目新しい楽器(左からトゥボロ・カホン・レインスティック・ハープ)の音を聞き、扱い方を子供達に伝えてみました。

この楽器って… なんだろう？



楽器の名前は“メタルカバサ”

どうやって鳴らすのかな？と真剣に考え、恐る恐る手のひらの上でゴロゴロ動かしてみると…

「くすぐったーい」「なんか気持ちいい～」と思わずニッコリ！

「ザラザラって、ビーズが繋がっている音がするよ。」と、お友だちや保育者に嬉しそうに教えてくれました。

楽器スタンドから自由に楽器を手に取り、お気に入りの歌を口ずさみながら楽しんでいます。



雨の音って どんな音？

雨の日。窓越しに園庭を眺めていた数名の子どもたちから「雨って音しないよね」「えっ、音するよ」「ポツポツでしょ？」「ザーザーじゃない？」などの会話が聞かれました。そこで、雨の音を確認するために傘をさして外に出てみることにしました。

あっ！聞こえる

音が違うね



えー何で違うの
おもしろい!!

傘以外にも一斗缶やブルーシートなどを用意し、素材の違いにより雨粒の音がどのように聞こえるのか試してみました。

写真での掲載はありませんが、蝉の鳴き声に気づいた子どもの声に耳を傾けた保育者が「なんて鳴いているのかな？」と問いかけると、「ミンミン」「ジージー」と表現する声。「蝉はミンミンって鳴くよ」「えっ、ミンミンじゃないよ」「なんて鳴くの？」と疑問に思ったときに、保育者が「蝉によって鳴き声が違うのかな？」とつぶやくと、図鑑で調べてみようとして発展し、蝉の種類や鳴き声の違いを知るきっかけになりました。

日常の中にあふれている様々な音にどのようにスポットを当てることで、子どもたちの興味関心に広がりが見られたり遊びに展開したりしていくこと、音を聞くだけではなく、手、足、体で音を発する体験をすることで、興味関心が広がり豊かな感性の育ちに繋がることを改めて感じています。

子どもが発する言葉や行動に、生活や遊びを豊かにするものが隠れていることを心に留め“すくすくわくわく”の芽を見逃さないようキャッチし、活動に繋がっていくよう環境を整え、好奇心や探求心を育んでいきたいと思えます。